

## 平成27年度 第5回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日時】 平成28年1月28日(木) 午後6時～8時  
【場所】 BIZ新宿(区立産業会館) 研修室A  
【出席者】 委員:植田、河藤、川名、松尾、酒井、前田、志村、加藤、富田、益田、太田、遠藤、友成各委員  
事務局:加賀美地域文化部長、太田産業振興課長、黒澤産業振興係長、久野主任主事、  
後藤産業創造プランナー

- 【傍聴者】 1名  
【配布資料】 省略

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 議事

- (1) 産業振興プランの棚卸について  
資料に基づき、産業振興プランの棚卸について事務局より説明した。
- (2) 産業実態調査について  
資料に基づき、産業実態調査について事務局より説明した。

#### 3 主な発言内容

##### ○現行の産業振興プラン

- ・新宿区はビジネス交流会などを実施しているが、今の時代にマッチしているのか課題があると感じる。交流会のテーマについても、人が集まってくるような魅力的なテーマ設定がされているのかということ、必ずしもそうではなく今までやってきた枠の中で行っていると思われる。対象も今までの延長線上で、例えばもっと若い人の意見を聞くことや、学生と企業のマッチングという形にはなっていない。創造力を爆発させるような、もう少し新しい視点を取り入れていく必要があると感じる。
- ・現プランでの戦略で施策に結びついていないところはいろいろあると思うが、それらをすべて区がやらなくてはいけないわけでもなく、何ができて何ができていないのかをきちんと見ておかないといけないと思う。
- ・新しいプランは現プランのどこを継承していくのか、不十分だから新しいことに変えていくのか、また現プランと第1期・第2期の産業振興会議で議論されてきたことがどのような関係性を持っているのかを明確にしなければいけない。その中で次の振興プランの方向性を考えていく。その関連性が必要ではないか。

##### ○産業実態調査の目的

- ・今回の調査は、新宿区が持っている産業振興ビジョンを知ってもらう意味が非常に大きいと思う。
- ・調査することは産業振興プランをつくるのに重要で、結果をマクロなデータとして整理し、新宿区がどうなっているのか浮き彫りにするのはいいが、それが何らかの手段にならないといけないのではないかな。目的を定めて、その後の活用の方向性を考えておかないと、データを集めても何にも生まれないことになってしまう。
- ・調査結果を活用していくには、まず「新宿区はこういうことをしたい」ということを調査時に提供していかないといけない。区としてはこういう方向に進めたいがどうかと問いかければ、それに対して賛成・反対が出てきて、「それをするのであればこんなやり方がある」と提案がでてくるかと思う。それによって次の産業振興プランが実践的なものになると思う。
- ・調査を行うときには区からの依頼文が添付されると思うが、その内容はおざなりなものにせず、区は次の産業振興プランに向けてどう考えているのか、今回の調査はそれに対してどの位置づけにあるのか、ここで明らかになったことはどのように活用していくのかを、読む人に伝えるよう、きちんと書き込んでいくことが必要ではないかと思う。
- ・今回の調査で、今新宿で元気で伸びている企業とはどういう企業なのか、その特徴を、業種を超えて掘んでいきたい。中には新宿にいなくても伸びるような企業はあると思うが、そういう企業も新宿にいてほしい。どこにいても伸びるような企業がどうして新宿にいるのか、あるいは新宿のどのような優位性を活かして新宿にいるのか、どういう仕事をしている人たちなのか、そういったことをもっとリアルにつかんでいけたらいい。

- ・基本的には従来の枠組みを取り払い、新しい枠組みにしていきたいと考えているので、それに結び付くような調査が少しでもできればいい。

#### ○産業実態調査の活用

- ・新宿には業種を超えたキーワードで企業が集積している可能性がある。そういうものも発見できれば、調査後に活用できる。同じ業界ではないが同じキーワードでつながり、集まれるようなものをつくっていくことも大事なのかもしれない。
- ・企業のマッチングを考えたときに、この調査は非常にいい機会である。調査すること以上に「誰が調査をするのか」という視点がきわめて重要であって、コーディネーターになり得る人が、この調査で企業から得た情報を蓄積しておき、他の企業とつなげていく。そういう人を育てるいい機会になるのではないかな。

#### ○産業実態調査の内容

- ・今回の調査では、ほかの統計調査ではわからないことを調査しないと意味がない。例えば経済センサスなどを見ればどのくらいの規模の企業がどのくらいあるのかということはだいたいわかる。一般的に使われている大分類・中分類・細分類でも捉えられない業務内容、実際に何の仕事をしているのか、リアルに把握できるような調査をしないといけないと思う。
- ・新しい産業ばかりではなく、後継者の問題、新宿区の産業には後継ぎがどれだけいるのか、もしくは今後自分の事業をどうやって継続していこうと考えているのか、従来型の産業の人たちの考えを聞く機会にもなるのではないかな。
- ・最近の流れでいくと大田区が民泊について条例を制定した。新宿は外国人が一番多いまちなので、これからオリンピックに向けて知人友人が多く訪れる可能性がある。新宿にはホテルが多くあり、民泊に対して関心があると思うので、企業の意見を聞いてみるのもいいのではないかな。
- ・働きながら子育てをする人たちに対してどういう関心を持っているか区の姿勢を知りたいし、企業が子育てやワークライフバランスを考えて、積極的にどういう施策を講じているのか、働く人に対してどう考えているのかも聞いてほしい。産業を創造していくということも大事だが、創造性のある人が集まらないと話にならないので、子育てやワークライフバランス、スタッフ・従業員の育成や教育の姿勢も調査項目に加えたらいいのではないかなと思う。
- ・企業が区の施策に対して期待していること、これから区に取り組んでほしいことを聞かないと、結果として区は何をしたらいいのか動けないのではないかな。
- ・今まで地域にいる人たちと何を一緒にやってきたのか、商店会イベントの参画やどういう団体とつながりがあるのか、過去のイベントなどを提示し、より分かりやすい説明をつけると、商店会や教育機関などとの連携状況が把握しやすくなると思う。わかりやすい投げかけが必要ではないかな。
- ・回答方式がイエスカノーだと回答しやすいし、調査結果がどこで見られるかを知らせておくだけで、回答率が少しはあがるような気がする。
- ・企業から区に対する期待というの聞いてみたいが、何をしてほしいかだけを聞くと金融支援となりがちなので、質問の仕方に工夫が必要である。
- ・新宿にいる企業は地域によって考え方が違うと思う。地域ごとの意識調査、地域性が現れる調査になるのではないかな。
- ・今後の産業政策の枠組みを、3段階ぐらいで評価してもらってはどうか。金融支援やイベントなどの施策を知らない人がほとんどだと思うので、興味をもって回答する企業が多いのではないかな。それに対して企業が興味を示さないとすると、区の施策としてどうなのかを考えなくてはいけない。

#### 4 次回日程について (予定)

日 時：平成28年4月20日(水) 18:00から

会 場：BIZ新宿 多目的ホール

#### 5 閉 会